

# 標 題



## 持続可能な観光のための自己評価システム

2022年12月28日

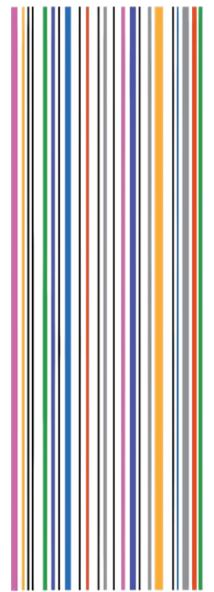
持続可能な観光のためのビジネス基準プロジェクト

サブリーダー 中込 昌治

エディタ 板垣 和芳

UN / CEFACT

# 第1章 当プロジェクトについて



UN / CEFACT

プロジェクト名：持続可能な観光のためのビジネス基準

## (1) プロジェクトの目的

国連の持続可能な開発目標 (SDG) は、持続可能な観光を独自の目標として挙げていません。しかし、いくつかのSDGsが観光産業に適用されます。

観光は、世界的にも地域的にも、地域社会、自然資産、気候、そして経済に深刻な悪影響を及ぼす危険性があります。そうしたことから、持続可能な観光への考慮が必要となります。

このプロジェクトの目的は、持続可能な観光と見なすことができることと見なすべきでないことに対するパラメータを設定するとともに、持続可能な観光を明確に定義することです。このプロジェクトで作成された基準を使って、持続可能な観光を区分するものです。

## (2) プロジェクト成果物

ホワイトペーパーのドラフトが完成しました。現在、UN/CEFACT ビューローに提出されています。

## 第2章 自己評価システムの開発



SDGs は、12.b で「持続可能な観光のための持続可能な開発の影響を監視するためのツールを開発および実装する」ことを要求しています。

ここでは、持続可能な観光のための自己評価システムを開発しました。



UN / CEFACT



# 第3章 自己評価システムの開発の概要



UN / CEFACT

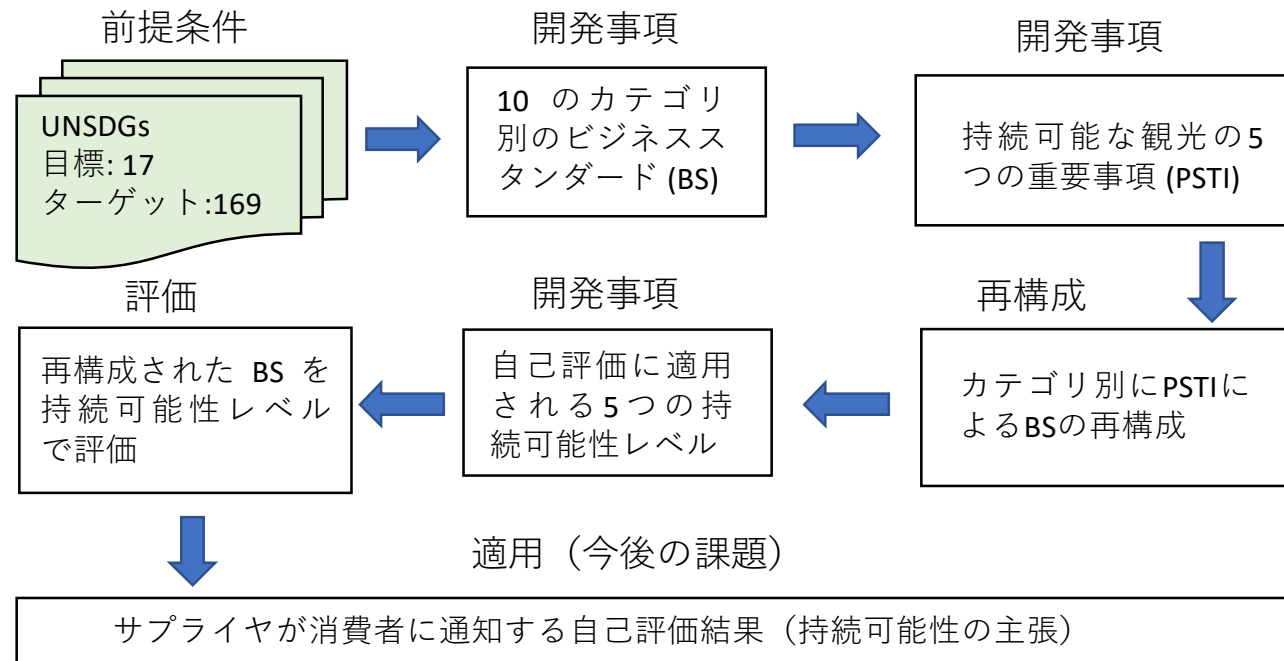
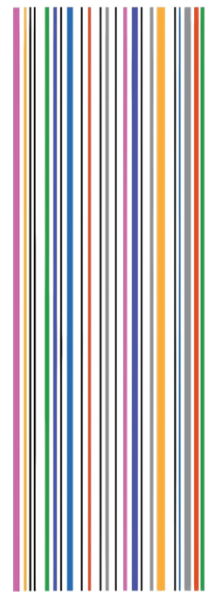


図 1 自己評価システム開発の概要

# ビジネス基準における10のカテゴリ



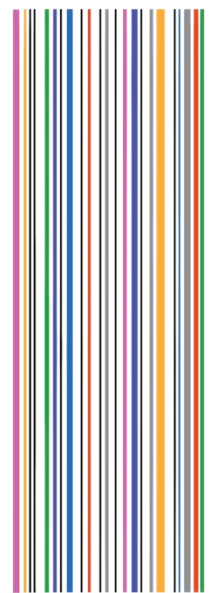
UN / CEFACT



- 1.食品/レストラン
- 2.宿泊施設
- 3.輸送
- 4.観光地
- 5.ショッピング
- 6.エンターテイメント
- 7.旅行代理店
- 8.地方自治体
- 9.体験プログラム
- 10.旅行者






図2 旅行/観光業界における10のカテゴリ

# 持続可能な観光のためのビジネス基準(BS)の例

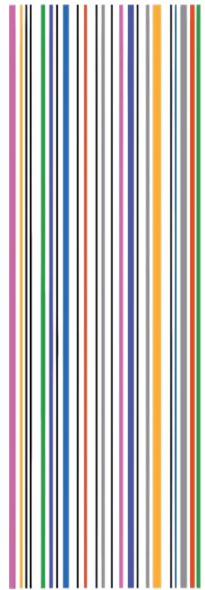


UN / CEFACT

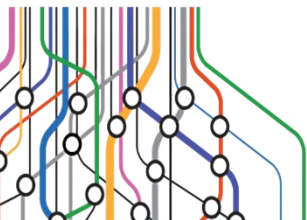
## 4.1 食品/レストラン

|   |   |
|---|---|
|    | 3.5 アルコールの有害な使用に関する標識またはガイドラインをメニューに掲載する<br>3.9 化学汚染によって引き起こされる病気を避けるために、有機食品材料の供給源の提供と使用を奨励する<br>3.a 店内及び周辺地域の禁煙環境を徹底して強化する  |
|    | 6.3 回収された雨水や、飲料水の使用を必要としない活動（例えば、洗浄など）でリサイクルされた使用済みの水を利用する<br>6.3 下水汚染を減らし、廃水の投棄を回避するために廃水システムを構築する<br>6.4 台所の蛇口・洗面台・トイレの水圧を下げたり、流し台や水道の水を自動給水したりする節水計画に取り組む<br>6.4 水の消費量を削減し、定期的に監視する目標を持つ<br>6.4 活動ごとの水の使用制限など、水の合理的な使用の目標を持つ（例えば、各食事に10リットルで優良とする）       |
|    | 7.2 再生可能エネルギー（風力、太陽光、太陽光発電）の使用率をあげる<br>7.3 効率的なエネルギー管理を採用し、エネルギースマートメーターを設置し、省エネ評価用の文書化を行う  |
|   | 8.5 障害者や失業者など不利な条件を負う人を、レジ場またはその他の適切な仕事に差別なく雇用する<br>8.6 同一価値の仕事に対して同一賃金を得るために、若者と高齢者にレストランでの雇用機会を創出する<br>8.8 労働者の権利を保護し、安全で安心な労働環境を促進する行動（安全と労働者の権利を定期的にチェックする）を励行する  |
|  | 12.3 食品を準備し配給する間に食品廃棄の査定を行う<br>12.3 食品の受け取りから配給まで、食事を生産するすべての段階で食品廃棄を避けるように従業員を訓練する<br>12.5 使い捨て材料の使用を可能な限り最小限に抑える戦略を採用し、記録に文書化する<br>12.5 食品の配給でのプラスチックの使用を減らす戦略を採用する<br>12.5 サプライヤーが再利用できるように梱包箱を返却する<br>12.5 回収またはリサイクルされた材料で作られた素材で作られた灯具、付属品、または家具を使用する |

# 第4章 持続可能な観光の重要事項 (PSTI)



UN / CEFACT



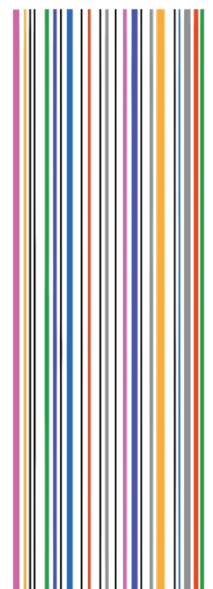
SDGsで直接的に提示された観光のターゲットを見出し、持続可能な観光の5つの重要事項を抽出しました。

- ターゲット 8.9 から : 「雇用創出および産品販促」
- ターゲット 11.4、14.7 から : 「文化遺産および自然遺産の保護と自然環境の保全」
- ターゲット 12.b から : 「持続可能な観光に対して持続可能な開発がもたらす影響の測定」  
= 「観光地管理」
- その他の観光関連のターゲットから : 「その他の持続可能な観光の重要事項」

抽出された持続可能な観光の5つの重要事項は次のとおりです。

- A. 「雇用創出および産品販促」
- B. 「自然環境の保全」
- C. 「文化遺産の保全」
- D. 「観光地管理」
- E. 「その他の持続可能な観光の重要事項」

# ビジネス標準 (BS) の重要事項による再構成の例



UN / CEFACT

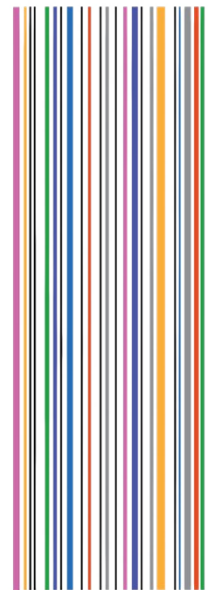


## 4.1 食品/レストラン

|  |   |
|--|---|
| <p>A.<br/>雇用創出と<br/>産品販促</p>             | <p>8.5 障害者や失業者など不利な条件を負う人を、レジ場またはその他の適切な仕事に差別なく雇用する<br/>8.6 同一価値の仕事に対して同一賃金を得るために、若者と高齢者にレストランでの雇用機会を創出する<br/>8.8 労働者の権利を保護し、安全で安心な労働環境を促進する行動（安全と労働者の権利を定期的にチェックする）を励行する</p>   |
| <p>B.<br/>自然環境の<br/>保全</p>               | <p>3.a 店内及び周辺地域の禁煙環境を徹底して強化する<br/>6.3 回収された雨水や、飲料水の使用を必要としない活動（例えば、洗浄など）でリサイクルされた使用済みの水を利用する<br/>6.3 下水汚染を減らし、廃水の投棄を回避するために廃水システムを構築する<br/>6.4 台所の蛇口・洗面台・トイレの水圧を下げたり、流し台や水道の水を自動給水したりする節水計画に取り組む<br/>6.4 水の消費量を削減し、定期的に監視するという目標を持つ<br/>6.4 活動ごとの水の使用制限など、水の合理的な使用の目標を持つ（例えば、各食事に10リットルで優良とする）<br/>7.2 再生可能エネルギー（風力、太陽光、太陽光発電）の使用率をあげる<br/>7.3 効率的なエネルギー管理を採用し、エネルギースマートメーターを設置し、省エネ評価用の文書化を行う<br/>12.3 食品を準備し配給する間に食品廃棄の査定を行う<br/>12.3 食品の受け取りから配給まで、食事を生産するすべての段階で食品廃棄を避けるように従業員を訓練する<br/>12.5 使い捨て材料の使用を可能な限り最小限に抑える戦略を採用し、記録に文書化する<br/>12.5 食品の配給におけるプラスチックの使用を減らす戦略を採用する<br/>12.5 サプライヤーが再利用できるように梱包箱を返却する<br/>12.5 回収またはリサイクルされた材料で作られた素材で作られた灯具、付属品、または家具を使用する</p> |
| <p>E.<br/>その他の<br/>持続可能な観<br/>光の重要事項</p> | <p>3.5 アルコールの有害な使用に関する標識またはガイドラインをメニューに掲載する<br/>3.9 化学汚染によって引き起こされる病気を避けるために、有機食品材料の供給源の提供と使用を奨励する</p>  |



# 第5章 PSTIによるビジネス基準の再構成



UN / CEFACT

ビジネス基準は、持続可能性レベルを自己評価するために、各カテゴリごとに PSTI によって再構成されます。

たとえば、カテゴリ4.1の食品/レストランでは、ビジネス基準が再構成され、表1に示されている PSTI ごとのビジネス基準の数で作業結果が表示されます。

表1では、持続可能な観光の重要事項 A には、8.5、8.6、および 8.8 の3つのビジネス基準が含まれています。

| 持続可能な観光の重要事項 | A.              | B.      | C.      | D.    | E.                       |
|--------------|-----------------|---------|---------|-------|--------------------------|
| カテゴリー        | 雇用創出と<br>商品販売促進 | 自然環境の保全 | 文化遺産の保全 | 観光地管理 | その他の持続<br>可能な観光の<br>重要事項 |
| 4.1食品/レストラン  | 3               | 14      | 0       | 0     | 2                        |

表1 PSTIによるビジネス基準の再構成の例

# 第6章 持続可能性レベル



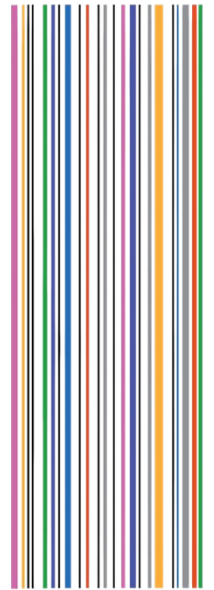
持続可能性レベルの改善経路は、図 3 のように段階的な表現で示されます。



図 3 持続可能性レベルの改善経路

UN / CEFACT

# 第7章 持続可能性の各段階



UN / CEFACT



持続可能性レベル 1  
**実施の初期状態**

SDGsの意識がない。  
持続可能な観光の重要事項に対する理解が不足している。

持続可能性レベル 2  
**限定的な繰り返し状態**

SDGsはある程度理解されている。  
ただし、限られた項目のみを取り上げ、限定的に実施されている。

持続可能性レベル3  
**実施プロセスを確立**

標準の実施プロセスが組織で承認されている。  
SDGs に対する十分な理解が認められる。

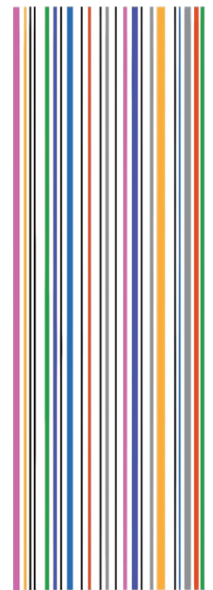
持続可能性レベル4  
**多くの重要事項を実施**

SDGsがよく理解されている。  
持続可能な観光の重要事項の多くが実施されている。

持続可能性レベル5  
**さらなる継続実施**

SDGsの完全な理解の下で、持続可能な観光の重要事項が十分に理解され、  
継続的に実施されている。

# 第8章 自己評価結果の表示例



UN / CEFAC

自己評価結果の表示例を表2に示します。

この表の数字は、持続可能な観光の重要事項ごとの持続可能性レベルを示しています。

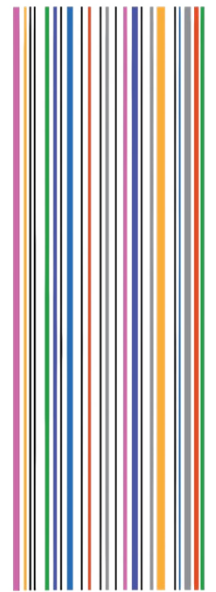
0の評価は、取るべきビジネス基準があることを示しますが、レストランABCはまだ行動を起こしていません。

(-) 欄は、持続可能な観光の重要事項に該当するビジネス基準がないことを示します。

| 持続可能な観光の重要事項  | A.              | B.      | C.      | D.    | E.                       |
|---------------|-----------------|---------|---------|-------|--------------------------|
| カテゴリ番号<br>実践者 | 雇用創出と<br>商品販売促進 | 自然環境の保全 | 文化遺産の保全 | 観光地管理 | その他の持続<br>可能な観光の<br>重要事項 |
| 4.1レストランABC   | 1               | 2       | -       | -     | 0                        |

表2 自己評価結果の例

# 第9章 自己評価情報の流れ



UN / CEFACT

ネットワークを通じてビジネス基準や自己評価結果を公開することで、購入者はEPs等の購入時に持続可能性のレベルを確認することができます。

図4は、ネットワークを介した自己評価情報の流れを示しています。

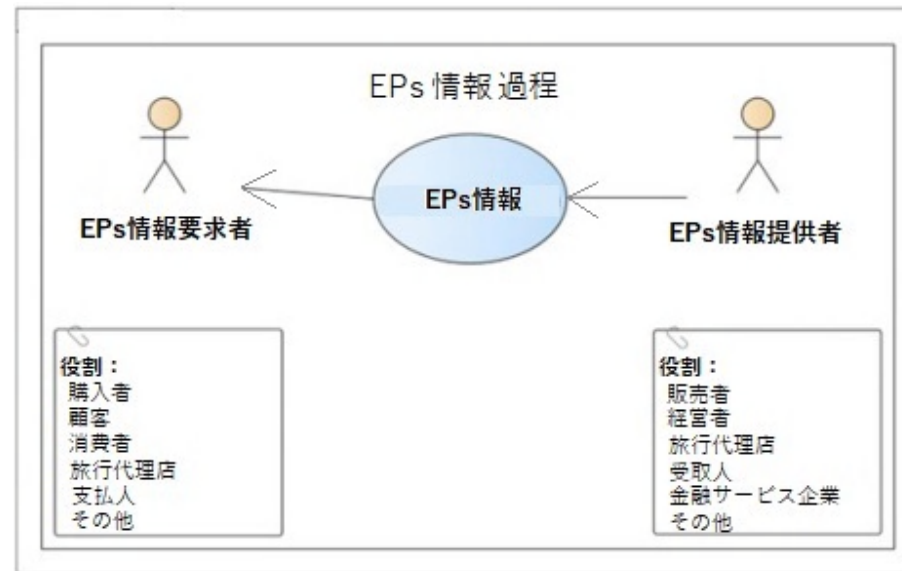
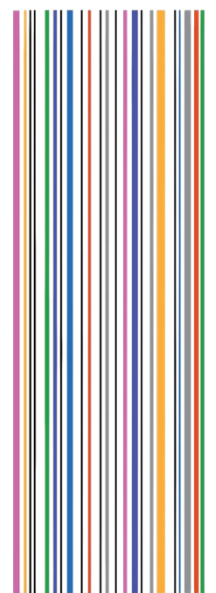


図4 自己評価情報の流れ

# 持続可能な観光のための自己評価システム



UN / CEFACT

終わり

